

大会 AFCチャンピオンズリーグ2008 G大阪が初優勝。Jクラブが2年連続、アジア王者に

AFC(アジアサッカー連盟)を代表して、世界への挑戦権を獲得

AFCチャンピオンズリーグ2008の決勝に進出したガンバ大阪が、アデレード・ユナイテッド(オーストラリア)を破り、初優勝を飾った。G大阪は11月5日、ホームの決勝第1戦に3-0と快勝した後、同12日にアウェイで行われた第2戦も2-0の勝利。対戦成績を2戦2勝とし、念願のタイトルを獲得。昨年の浦和レッズに続き、Jクラブが2年連続してアジアの王座に就いた。

準決勝で浦和に競り勝ち、決勝へコマを進

めたG大阪は、万博記念競技場が舞台となった第1戦、持ち前の攻撃的なサッカーを披露。FWルーカス、MF遠藤保仁のゴールによって前半を2-0と折り返し、後半にもDF安田理大が素晴らしいボレーシュートで追加点。「ガンバラしいサッカーができたと思う。理想的な結果」(西野朗監督)という快勝を収め、1週間後の第2戦に臨んだ。

その第2戦も、キックオフからわずか4分にルーカスが先制。その10分後には再びルーカス

が決めて2試合合計スコアを5-0とし、優勝へ大きく前進した。その後はアデレード・ユナイテッドの反撃を受けたが、守備陣も集中力あふれるプレーでしのぎ、得点を許さなかった。

西野監督が「勝ちきりの中でタイトルを取ることに意義があると思っていた」というG大阪は、グループステージからの12試合を9勝3分と無敗。しかも、アウェイゲームは6戦全勝という見事な成績を残し、栄冠を勝ち取った。また、大会の最優秀選手には、準決勝第1戦から3試合連続得点を挙げるなどの活躍を見せた遠藤が選ばれた。

G大阪はこの優勝によってAFCを代表し、12月11~21日に日本で開催されるTOYOTA プレゼンツ FIFA クラブワールドカップ ジャパン 2008への出場権を獲得した。クラブチームの世界一を決める大会で、昨年は浦和がアジア勢史上最高となる3位の好成績を収めている。この大会の出場チーム、組み合わせは下表を参照。



12試合に負けなし、アウェイゲームは6戦全勝という見事な成績によって、クラブ史上初のアジア制覇を成し遂げたG大阪



決勝第2戦の4分、ルーカスが先制して優勝へ大きく前進



アデレードでも大声援を送ったファン・サポーター

鬼武健二 Jリーグチェアマンのコメント

ガンバ大阪、アジア制覇おめでとう。心からお祝い申し上げます。(決勝第2戦の)立ち上がりはディフェンスにスタートしたが、カウンターから1点取った後は、「キープ力」、「技術力」、「チームワーク」の光る、いつものガンバ大阪らしいゲームで、完勝でした。監督、選手、スタッフなど、クラブに携わったすべての方たちをたたえたい。「TOYOTA プレゼンツ FIFA クラブワールドカップ ジャパン 2008」でもトーナメントを勝ち上がり、マンチェスター・ユナイテッドを倒すような活躍を期待しています。



大会MVPの遠藤が決勝第1戦で2点目を決める

AFCチャンピオンズリーグ2008	準々決勝	準決勝	決勝
サイバ(イラン)	①2-2 ②1-5	3	1
クルブチ(ウズベキスタン)	①0-3 ②1-0	7	0
鹿島アントラーズ(日本)	①1-1 ②0-1	1	3
アデレード・ユナイテッド(オーストラリア)	①3-2 ②0-2	2	0
アル・カディシア(クウェート)	①1-1 ②1-3	3	5
浦和レッズ(日本)	①1-2 ②0-2	4	4
アル・カラマ(シリア)	①1-2 ②0-2	1	4
ガンバ大阪(日本)		4	

スコアの最初の数字は組み合わせの上側のチームの得点

TOYOTA プレゼンツ FIFA クラブワールドカップ ジャパン 2008	1回戦(開幕戦)	準々決勝	5位決定戦	準決勝	3位決定戦	決勝
アルアハリ アフリカ代表(CAF)		12月13日(土) 13:45 東京		12月17日(水) 19:30 東京		
パチユカ 北中米カリブ海代表(CONCACAF)						
リガ・デ・キト 南米代表(CONMEBOL)						
アデレード・ユナイテッド アジア代表(AFC) ※準優勝	12月11日(木) 19:45 東京	12月14日(日) 19:30 豊田	12月18日(木) 16:30 横浜	12月21日(日) 16:30 横浜	12月21日(日) 19:30 横浜	
ワイタケレ・ユナイテッド オセアニア代表(OFC)						
ガンバ大阪 アジア代表(AFC)				12月18日(木) 19:30 横浜		
マンチェスター・ユナイテッド 欧州代表(UEFA)						

※AFCチャンピオンズリーグ2008準優勝

育成

トップチームへの登竜門。12月はいよいよ決勝トーナメント

Jユースカップ2008 第16回Jリーグユース選手権大会の予選リーグが終了

Jユースカップ2008 第16回 Jリーグユース選手権大会の予選リーグが11月24日に終了し、決勝トーナメント進出チームが出そろった。12月に行われる決勝トーナメントは、31クラブの参加による予選リーグを勝ち抜いた14チームに、日本クラブユースサッカー連盟代表の4チームを加えた合計18チームによって争われる。

この大会はユース世代の選手育成と真剣勝負の機会を提供するために開催されており、日本サッカー協会の第2種(高校生年代)に登録する選手たちが中心となる。Jリーグや

日本代表で活躍する数多くの選手が出場を経験しており、トップチームへの登竜門ともいえる重要な大会だ。また、育成と同時に、勝者のメンタリティーを身につけるべく、結果も大切な要素であり、指導者の手腕、クラブの総合力も問われる。大会は回を重ねるごとにレベルアップし、若い選手たちのひたむきなプレーが大いに注目されている。

なお、12月27日に大阪長居スタジアムで開催が予定される決勝は、スカパー!(スカチャン)、スカパー!e2(スカチャン)の無料放送によって生中継されることが決まった。



昨年の大会はFC東京U-18が初優勝を飾った

Jユースカップ2008 第16回Jリーグユース選手権大会 決勝トーナメント出場チーム

【予選リーグ通過チーム】

東京ヴェルディユース/ジェフユナイテッド千葉U-18
横浜 F・マリノスユース/鹿島アントラーズユース
FC東京U-18/大宮アルディージャユース
柏レイソルU-18/浦和レッズユース
ガンバ大阪ユース/清水エスパルスユース
セレッソ大阪U-18/サンフレッチェ広島ユース
名古屋グランパスU-18/京都サンガF.C.U-18

【日本クラブユースサッカー連盟代表】

塩釜FCユース
フットボールクラブライオスユースU-18
三菱養和サッカークラブユース
アミーゴス鹿児島U-18

決勝トーナメント日程

1回戦 12月7日(日)/ベストアメニティスタジアム
2回戦 12月13日(土)または14日(日)/出場クラブホームスタジアムなど
準々決勝 12月20日(土)/NACK5スタジアム大宮、長居第2陸上競技場
準決勝 12月23日(火・祝)/長居第2陸上競技場
決勝 12月27日(土)/大阪長居スタジアム

専門委員会委員選任について

Jリーグは、Jリーグ技術委員会委員に育成分野全般への取り組み、特に女子育成分野推進のため、財団法人 日本サッカー協会 特任理事の野田 朱美氏を選任した。

*敬称略/五十音順、※=新任

	氏名	所属
委員長	山下 則之	(社)日本プロサッカーリーグ HRディベロップメントグループ マネージャー
委員	池田 誠剛	浦和レッズ アカデミーセンター フィジカルコーチ
	上野山 信行	ガンバ大阪 普及・育成部長
	小幡 真一郎	(財)日本サッカー協会 審判・チーフインストラクター
	眞藤 邦彦	(財)日本サッカー協会 指導者養成ダイレクター
	反町 康治	前U-23日本代表 監督
	瀧井 敏郎	東京学芸大学 教授
	中村 和彦	山梨大学 准教授
	中村 勝則	(株)横浜マリノス 取締役
	野田 朱美※	(財)日本サッカー協会 特任理事
	原 博実	サッカー解説者(FC東京 前監督)

【略歴】野田 朱美(のだ あけみ) 1969年10月13日生まれ
元日本女子代表としてFIFA女子ワールドカップ(1991、95年)、オリンピック(96年)、アジア大会(90、94年)に出場。日本サッカー協会公認B級ライセンス取得中。
所属歴:1982年~94年 読売日本サッカークラブベレーザ(Lリーグ)
1995年~96年 宝塚パニーズレディーズサッカークラブ(Lリーグ)

実行委員・参与選任

Jリーグは11月18日に開催した理事会で、下記の実行委員選任を承認、参与選任を決定した。

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
ベガルタ仙台	名川 良隆 (株)ベガルタ仙台 前代表取締役社長	安孫子 博(あひこ ひろし) (株)ベガルタ仙台 代表取締役専務
参与		
名川 良隆:前ベガルタ仙台 実行委員 2004年5月~08年9月 (在任期間4年4カ月)		

「芝生とスポーツフォーラム磐田2008」を後援

Jリーグは、静岡県ならびに磐田市が主催する「芝生とスポーツフォーラム磐田2008」への後援を決定した。「芝生とスポーツフォーラム磐田2008」は、文部科学省の実施する「緑のグラウンド維持活用推進事業」の一環として行われ、芝生化によってより良いスポーツ環境づくりを目指すことを目的とし、12月14日(日)13時30分~15時30分(予定)、アミューズ豊田・ゆやホールでパネルディスカッションが行われる。パネルディスカッションのテーマは、第1部が「芝生グラウンドの維持管理」、第2部が「芝生グラウンドを活用したスポーツプログラム」。

「百年旅行~明日へ紡ぐメッセージ」好評放映中

豊かなスポーツ文化の醸成という壮大なプロジェクトを担うさまざまな人々を通し、「Jリーグ百年構想」のメッセージを伝える。

■放送局:BS日テレ ■放送時間:毎週金曜日 22:30~23:00

17 ジェフユナイテッド千葉



ホームタウン広域化で地域密着に注力。クラブ内の結束も強まる

クラブ挙げての一大イベント

今年の6月、梅雨前の抜けるような青空の下、6回目を迎えた「ホームタウンふれあいフェスタ」がホームタウンの市原市と千葉市で同日開催された。全選手を含む社長以下、クラブスタッフが全員参加するクラブ挙げての一大イベントだ。会場は、市原市がトップチーム練習場のフットパーク姉崎、千葉市はホームスタジアムのフクダ電子アリーナ。対象は両市に在住する小学生で、今年は市の広報誌などで募集した中から抽選で300人の子供たちが参加した。

ジェフユナイテッド市原・千葉は2003年3月、ホームタウンを市原市と千葉市に広域化し、同年4月には「魅力あるクラブづくり、地域とともに歩むクラブ、自主自立の経営」を3つの柱とした、2010年を見据えたクラブビジョンを策定。同フェスタはその一環として、両市の協力を得て始まった。

「広域化の際、それまでのクラブのありかたを振り返ってみると、ホームタウンでの地域活動が今ひとつ足りなかった。クラブがもう一度足元を見つめ直し再出発するとき、地域活動により注力していくことが重要だった」とホームタウン事業整備室課長の高橋薫さんは説明する。



高橋 ホームタウン事業整備室課長

フェスタには、サッカー経験のない子ども大勢来る。選手とコーチによるサッカー教室や記念撮影、サイン会などが中心だが、ボールを使わずに、手つなぎ鬼などで子供たちと触れ合い、遊ぶことをモットーにしている。約2時間半のイベントは、遊びに夢中になって記念撮影、サイン会は時間がギリギリになり、いつも予定時間を大幅にオーバーしてしまう。しかし、子供たちと選手の笑顔を見ていると終わった後の達成感が心地良いとスタッフは口をそろえる。何より選手たちが練習や試合で見せることのないリラックスした姿が新鮮だという。

「本当にみんなが楽しそうで、子供たちより選手のほうがリフレッシュし、刺激をもらっている」



フクダ電子アリーナでのふれあいフェスタ。子供たちと握手であいさつする斎藤大輔選手 ©ジェフユナイテッド千葉

と高橋さんはほほ笑んだ。

同フェスタはシーズン中ということもあり年1回の開催。年々参加希望者は増え今年の場合、千葉市は700人の応募があった。「1人でも多くの子供たちを招待したい」とクラブは一度に多くの子供たちを招く方法を検討している。

選手もスタッフも一緒に学ぶ

もう一つ、05年から始めた新たな社会貢献活動に、ホームタウン内の福祉施設への訪問がある。この活動も選手・スタッフ全員参加。毎年、新シーズン始動日とオールスターサッカーのJリーガーズウィークのときに行われる。市原市、千葉市に養護学校や老人ホームなどの施設を10施設ほどピックアップしてもらい、選手、スタッフを10人ほどずつ振り分け、それぞれ



フットパーク姉崎でのふれあいフェスタ。子供たちと笑顔でボールを追う中島浩司選手 ©ジェフユナイテッド千葉

同じ日に訪れる。

当日のプログラムはスタッフが事前に施設を訪れ、ニーズに合わせて一緒につくる。基本的にはミニサッカーなどで触れ合い、可能であれば給食も一緒に食べて、サッカー以外のいろいろなことを話す。学校の子供たちも純粋に分け隔てなく選手たちを迎えて喜んでくれ、時にはスタッフにもサインをねだる。

「選手もスタッフも学ぶ

ことが多い。特に若い選手は養護学校などで感じる人が多いようで、サッカー選手としてでなく、一人の人間としてかけがえのない経験をさせてもらっている」と高橋さんは言う。選手たちは施設から戻ると、それぞれの出来事や感想を話すようになり、巻誠一郎選手や坂本将貴選手はこの経験がきっかけで、養護学校やフリースクールに通う子供たちをスタジアムに招待する「巻シート」や「坂本シート」を始めた。

ファン感謝デー以外で、トップチームすべての選手とスタッフが参加するのはJリーグ全体でも珍しい。選手とスタッフが同じスタンスで行う一連の活動で、思わぬ効果も生まれた。それは選手とスタッフの距離が縮まり、全員参加によりクラブ内の結束がより強まったことだ。「人のため、地域のためになればと始めたことが、気がつけば自分たちのためにもなっている。みんなが幸せになればこんなにもいいことはない。クラブビジョンもすべては地域と共にあって成り立つ。地域の核として、ホームタウンの皆さんにジェフがあることを誇りに思ってもらうことが目標です」と高橋さんは思いを語った。

ジェフユナイテッド市原・千葉にとっての「Jリーグ百年構想」は、ホームタウンの人々の、一瞬一瞬の喜びや幸せの積み重ねにほかならない。地域密着は着実な一歩を踏み出し、さらに発展していこうとしている。

(千葉日報社 小林 清一)

誰もが気軽にスポーツを楽しめるような環境づくりを目指す「Jリーグ百年構想」の実現に向けて、JリーグとJクラブはさまざまな施策を展開している。その活動の最前線ともいえるJクラブは、それぞれのホームタウンを中心に、地域の特色、実情などに応じて多彩なプログラムに取り組む。地域に根差し、活力を与えるこれらの活動を、各地のメディアがリポートするシリーズの9回目は、ジェフユナイテッド千葉とサンフレッチェ広島にスポットを当てた。



18 サンフレッチェ広島



対面のお付き合いを軸に、地域と共に戦うクラブへ



クラブカラーの紫ののぼり。PRサポートショップであることを示す洋菓子店 ©サンフレッチェ広島

てくれる店はあった。選手やサポーターの関係者だったり、クラブスタッフ、職員の顔見知りだったり、個人的なつながりと厚意で点在していた。「きちんと把握して、末永く深い関係を築きたい」と工藤課長が提案した。公募で意外な出会いもある。「試合を見に行ったことはないけど、広島のプロチームを応援したいという人もいた。色が好きじゃけえ、という方もいた」。クラブ側から見えていなかった思わぬサポーターが名乗り出た。



ダンススクールもクラブを応援。PRサポートショップは業種を問わない。「わしらの街のサンフレッチェ」の輪は確実に広がっている ©サンフレッチェ広島

思わぬサポーターが名乗り

道ばたに紫ののぼりが、はためている。昨日はなかった場所に、今日から立っている。サンフレッチェ広島が今年9月から募集した「PRサポートショップ」のあかし。「サンフレッチェを応援しています」の目印でもある。通勤途中の路地裏に、飲みに繰り出した繁華街に。「お！こんなところにサンフレッチェ」。商店街バナナや〇〇ストリートほど格好よくないが、ひょこっと現れる紫が広島らしい。

サポートショップは登録無料。業種は問わない。「一応」の条件は広島県内にあること。飲食店や不動産業、本屋、建設業、茶卸、文房具屋、ダンススクール…。多種多様。サンフレッチェ広島事業本部ホームタウン推進部地域担当の工藤宏一課長が最初に手にとった応募FAXは、広島県北部で営むお米屋さんからだ。2カ月余りで200軒近くが申し込んだ。東部の福山市、西部の大竹市、北部の庄原市などエリアも広い。「街中での露出を増やしたいという狙いもあるが、それ以上に、地域と深く長いお付き合いをしたいんです」と工藤課長。目標は本年度中に300軒と掲げる。



工藤 ホームタウン推進部地域担当課長

これまで、ポスターやポケット日程表を置い

職員が、のぼりとポケット日程表、ポスターなどグッズを手分けして直接、届けて歩いた。工藤課長は「顔を見せなければならない。足を運ばなければならない」と繰り返す。ある職員が訪問した店は留守だった。一連のグッズを置いて帰ったが、後日、先方が手みやげを持って、クラブ事務所を訪ね、礼を言われたという。「年に2回はクラブスタッフが店に顔を出す方針」と工藤課長は力説する。顔をつき合わせたお付き合いを軸に置く。

「ピンチをチャンスに」

広島は1993年のJリーグ元年から参加しているチームの一つだ。しかし、110万人都市の広島市には、もう一つプロチームが存在する。プロ野球の広島東洋カープ。原爆投下で廃墟になった広島市に戦後、誕生した。復興のシンボルで、元祖「市民球団」として、存在感は大きい。

そのイメージを少し変えたのが昨年だった。広島市西区のJR横川駅周辺の商店街がサポートタウンを名乗り出た。同駅前から広島ビッグアーチへのシャトルバスが発着し始めたのが、きっかけだった。駅前に紫ののぼりが立ち、日に日にエリアは拡大した。今年夏には、寄せ書き大会や「J1復帰決定試合はいつ？」のクイズを実施して、昇格へ向かってひた走るチームを盛り上げた。玩具店では選手が試合日の移動で使うバスにそっくりなミニチュアを

製作した。

FW佐藤寿人やMF森崎和幸、MF森崎浩司ら選手が、商店街の小さな祭りにも顔を出す。横川商店街はサポーターグループの仲介で実現した。地域とクラブ、選手とサポーターがつながり、「わしらの街のサンフレッチェ」が形となった。先駆けとなった商店街はもちろん、サポートショップにも登録している。

工藤課長の描く将来像がある。10月にJサテライトリーグが福山市で開催された。サテライトの試合は練習場として使う安芸高田市の吉田サッカー公園が多い。「福山で試合があると知らなかった人も多いのではないかな。サポートショップに協力してもらい、試合告知ができるのではないかな。情報発信のアンテナショップも可能性の一つ。サンフレッチェ談議の拠点になってほしいと願う。

J2降格とJ1復帰。激動の2シーズンになった。「ピンチをチャンスに変えよう」が合言葉。今年は第87回天皇杯全日本サッカー選手権大会の準優勝に始まり、2008ゼロックス スーパーカップ優勝、J2独走優勝と注目度も高まっている。前回、降格した03年、翌年の04年も関心を集めた。しかし、持久力は続かなかった。入場者数も下降し、2度目の降格を味わった今こそ、地域と共に戦うクラブへ。地域と築く「わしらの街のサンフレッチェ」の輪も、再チャレンジが始まっている。

(中国新聞社 広重 久美子)



「郷土愛」を喚起したチームの活躍

大分トリニータの2008 Jリーグヤマザキナビスコカップ初優勝に寄せて

大分合同新聞社◎ 坂本 陽子



クラブ史上初の快挙を伝える号外に殺到する人々。用意した部数は瞬間になくなった(大分市内)
©大分合同新聞社

「トリニータの号外です」。2008 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝があった11月1日、大分合同新聞社は大分市内7カ所と大分空港で大分トリニータ初優勝を伝える号外8,600部を配った。「勝ったんかえ!」。朗報を聞いた瞬間、県民が殺到。号外の取り合いになり、瞬間になくなった。これまでにない盛り上がり。号外を配る前から「号外はまだか」という電話がかかり、「刷り上がるまで待っている」と新聞社前で待機する県民もいたほど。歓喜の優勝から1週間は「号外が余ってないですか」という問い合わせが続いた。

大分トリニータが県民を元気づけている。

郎さん(営業推進部販売企画課長補佐)は「サッカーに関心がなかった人たちが話に加わるようになった。優勝以来、変わった。プロ野球のジャイアンツよりも、トリニータの話が増えた。セールの売れ行きも予想以上だった」と驚く。

優勝で「メジャー」な存在へ脱皮した。それまでも県民に認知されていたが、強烈なインパクトで新たな層を掘り起こした。凱旋(がいせん)報告会(3日・九州石油ドーム)には6,000人を超えるファン・サポーターが集まり、歴史をつくったチームを祝福した。決勝直後のリーグ戦となるジェフユナイテッド千葉



九州石油ドームでの凱旋報告会でチームを祝福するファン・サポーター ©大分合同新聞社

残留争いも経験しながら、発足15年目で初タイトルを獲得した。タクシーの運転手、居酒屋のお客さん、小・中・高校生、パートの中老年女性らが口々に優勝を話題に上げ、サッカーが“共通語”になった。優勝記念セールをしたトキハインダストリー(大分市)の吉弘哲

戦(9日・九州石油ドーム)は、浦和レッズ戦(7月12日、2万8214人)に次ぐ今季ホーム2番目(第31節時点)の入場者数、2万3517人を記録している。ヤマザキナビスコカップ効果が数字に表れた。「スタジアムで応援してみよう」。トリニータの勝敗に敏感になり、優勝争いをしているリーグ戦への関心はうなぎ上り。

国立競技場には1万人以上が大分から出向いた。陸、海、空とあらゆる交通手段を使った。大分からこれほどの人数がスポーツの応援で駆けつけたことはない。前代未聞の熱狂ぶりはトリニータが「郷土愛」を喚起させてくれたこともあるだろう。県リーグの時代から応援している長瀬幸江さん(中津市)は「みんなが東京入りするため、旅行代理店を走り回るなど、手を尽くした。優勝に立ち会い“やろうと思えばやれる”という自信にもなった。今後の人生を明るく強く生きていく上で、ターニングポイントになった試合だった。だが、一夜で急に変わるものではない。本当の変化はこれからだと思う」と話した。初優勝という「革命」で大分がどんな「夜明け」を迎えるのか。2009シーズンが今から楽しみだ。